

シリーズ **土地改良** のあしあと 町屋川沿岸土地改良区 (桑名市)



記念碑

地区の概要

当土地改良区は、町屋川最下流に農業用水の取水施設である町屋川頭首工を有し、受益面積(桑名市・三重郡川越町・朝日町)約310ha、組合員数825名で理事20名、監事4名、事務員1名で運営されている。

地区の沿革

本地区は、町屋川下流沿岸地域で桑名市の南部平坦地と朝日町、川越町の北部平坦地の耕地であり、従来は町屋川より11ヶ所の井堰または樋管と3ヶ所の揚水機により取水していたが、取水施設の不完全及び河床低下のため取水が困難で、毎年水不足の状態であったため、14ヶ所の取水施設を1ヶ所に統合し、近鉄線町屋川鉄橋下流に頭首工を新設し、左右両岸の用水路5278mを新設及び改修した。昭

和28年に県営事業として総工費約1億円(当時)で着工し、昭和32年に完成をみた。頭首工でせき止められた町屋川の水は、取水口から取り入れられ調整池で貯められた後、桑名市と対岸の朝日町、川越町の幹線水路に送られ、地域の農業用水の安定供給に大きな役割を担ってきた。

今後の課題

50年以上の歴史を持つ当土地改良区も市街地化の進行によって、アパート建設や宅地分譲などの転用による農地の減少や、組合員の高齢化や後継者不足といった問題をかかえており、将来に不安を抱かえている。また、施設の老朽化も懸念されているが、土地改良施設維持管理適正化事業に加入し、計画的な施設の管理補修を行いながら安定した配水を行うべく、維持管理に努力していきたい。



町屋川頭首工



町屋川左岸にある貯水槽